

麻酔科専門医研修プログラム名	埼玉医科大学病院 麻酔科専門医研修プログラム	
連絡先	TEL	049-276-1271
	FAX	049-276-1271
	e-mail	iwase@saitama-med.ac.jp
	担当者名	岩瀬良範
プログラム責任者 氏名	長坂 浩	
研修プログラム 病院群	責任基幹施設	埼玉医科大学病院
	基幹研修施設	
	関連研修施設	埼玉医科大学国際医療センター麻酔科、埼玉県立小児医療センター麻酔科、栃木県立がんセンター麻酔科、東京都立神経病院麻酔科、旭中央病院麻酔科、小川赤十字病院麻酔科、上都賀総合病院麻酔科、国立病院機構浜田医療センター麻酔科、国立国際医療研究センター麻酔科、埼玉県厚生連熊谷総合病院麻酔科
プログラムの概要と特徴	当プログラムは、埼玉医大病院を責任基幹施設として、多岐な分野にわたり豊富な症例数を有する病院群を形成しています。その目標は、患者様には最良の診療効果、研修者には最良の研修効果を得ることにあります。	
プログラムの運営方針	近隣から遠隔地までダイナミックな病院群になっていますので、各専攻生の希望を可能な限り優先しながらも、常に良医たる麻酔科専門医を目指していただきます。	

責任基幹施設 研修プログラム

2015 年度 埼玉医科大学病院 麻酔科専門医研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である埼玉医科大学病院、関連研修施設の埼玉医科大学国際医療センター、埼玉県立小児医療センター、栃木県立がんセンター、東京都立神経病院、旭中央病院、小川赤十字病院、上都賀総合病院、国立病院機構浜田医療センター、国立国際医療研究センター、埼玉県厚生連熊谷総合病院において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

2. プログラムの運営方針

- 各専攻医の麻酔科研修カリキュラムの到達目標達成(麻酔科専門医受験資格の取得)および長期視野に基づいた研修の希望を優先する。
- 研修4年間のうち3年間(またはそれに等しい日数)を限度とした期間は責任基幹施設で常勤医師として研修を行い、1年間(またはそれに等しい日数)を関連研修施設で常勤または非常勤医師として研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

3. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

1) 責任基幹施設

埼玉医科大学病院(以下、大学病院)

プログラム責任者:長坂 浩(診療科長、教授)

指導医:松本延幸(教授、麻酔指導医、ペインクリニック)

長坂 浩(教授、麻酔指導医、ペインクリニック)

井手康雄(教授、麻酔指導医、ペインクリニック)

中山英人(教授、麻酔指導医、集中治療)

岩瀬良範(教授、麻酔指導医、集中治療)

水上 智(准教授、麻酔指導医、集中治療)

前山昭彦(准教授、麻酔指導医、集中治療)

麻酔科認定病院番号:84

麻酔科管理症例 4412症例 2013/4/1～2014/3/31

	症例数
小児(6歳未満)の麻酔	299
帝王切開術の麻酔	281
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	6
胸部外科手術の麻酔	8
脳神経外科手術の麻酔	98

2) 基幹研修施設 なし

3) 関連研修施設

① 埼玉医科大学国際医療センター

研修実施責任者: 北村 晶

指導医: 北村 晶(麻酔)

磨田 裕

西部 伸一

有山 淳

辻田 美紀

専門医: 市川 ゆき

古市 昌之

上嶋 浩順

今西 宏和

西暦2007年 麻酔科認定病院取得(認定番号 第 1316 号)

麻酔科管理症例 5489 症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	159	0
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	612	120
胸部外科手術の麻酔	342	92
脳神経外科手術の麻酔	253	3

② 埼玉県立小児医療センター

・ 研修実施責任者: 蔵谷紀文

・ 指導医: 濱屋和泉 (小児麻酔)

阿久津麗華 (小児麻酔)

関島千尋 (小児麻酔)

佐藤麻美子 (小児麻酔)

麻酔科認定病院番号:399

麻酔科管理症例 2193 例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	1377	50
心臓血管手術の麻酔	72	0
胸部外科手術の麻酔	25	1
脳神経外科手術の麻酔	122	5

③ 栃木県立がんセンター

研修実施責任者:大坪 俊紀

専門医:志賀 由佳(麻酔)

麻酔科認定病院番号:443

麻酔科管理症例 1533 例

	全症例	本プログラム分
胸部外科手術の麻酔	123	98

④ 東京都立神経病院

・研修実施責任者:又吉宏昭(麻酔科医長)

・専門医:又吉宏昭(麻酔専門医、麻酔、ペインクリニック)

三宅奈苗(麻酔専門医、麻酔、集中治療)

麻酔科認定病院番号:1056

麻酔科管理症例 373 症例 2013/4/1~2014/3/31

	症例数	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	25	10
脳神経外科の麻酔	151	50

⑤ 総合病院国保旭中央病院

研修実施責任者:岡 龍弘

指導医:岡 龍弘(麻酔)

平林和也(麻酔, ペインクリニック)

専門医:舩田吉伸(麻酔)

大江恭司(集中治療)

長谷川まどか(麻酔)

麻酔科認定病番号 第375号

麻酔科管理症例 3735症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	122	10
帝王切開術の麻酔	258	20
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	104	10
胸部外科手術の麻酔	123	31
脳神経外科手術の麻酔	154	20

⑥ 小川赤十字病院

プログラム責任者:村上康郎(麻酔科副部長・第三外科部長(兼担))

指導医:村上康郎(麻酔指導医, ペインクリニック)

相川 清(麻酔指導医, 集中治療)

麻酔科認定病院番号:第 959 号

麻酔科管理症例 1191症例 2013/4/1~2014/3/13現在

	症例数	本プログラム分
脳神経外科手術の麻酔	12	12

⑦ 上都賀総合病院

研修実施責任者:大津 敏

指導医:医師名:大津 敏(麻酔)

高山 尚美(麻酔)

麻酔科認定病院番号 第849号

麻酔科管理症例 1030症例 2013/04/01~2014/03/31

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	7	0
胸部外科手術の麻酔	2	0
脳神経外科手術の麻酔	50	10

⑧ 国立病院機構浜田医療センター

研修実施責任者:土井克史

指導医:土井克史

麻酔科認定病院番号:1575

麻酔科管理症例 1464症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	7	3
帝王切開術の麻酔	150	20
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	75	20
胸部外科手術の麻酔	57	20
脳神経外科手術の麻酔	24	10

⑨ 国立国際医療研究センター

研修実施責任者:前原康宏

指導医:前原康宏

伊藤大真

古屋美香

専門医:野間祥子

麻酔科認定病院番号:14

麻酔科管理症例 3615症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	28	0
帝王切開術の麻酔	104	0
心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)	89	0
胸部外科手術の麻酔	172	0
脳神経外科手術の麻酔	195	27

⑩ JA埼玉県厚生連熊谷総合病院

研修実施責任者:中村信一

指導医:中村信一(麻酔)

麻酔科認定病院番号:第1560号

麻酔科管理症例 1334症例

	全症例	本プログラム分
小児(6歳未満)の麻酔	5	5
脳神経外科手術の麻酔	86	86

4. 募集定員

10名

5. プログラム責任者 問い合わせ先

埼玉医科大学病院 麻酔科

長坂 浩(診療科長)

埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

TEL 049-276-1271

[5]総合病院国保旭中央病院(関連研修施設) 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域, および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における, 適切な臨床的判断能力, 問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し, 診療を行う上での適切な態度, 習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して, 生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1(基本知識)麻酔科診療に必要な下記知識を習得し, 臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1)総論:

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義, 医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上:麻酔の合併症発生率, リスクの種類, 安全指針, 医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理, 環境整備について理解し, 実践できる。

2)生理学:下記の臓器の生理・病態生理, 機能, 評価・検査, 麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡, 電解質
- i) 栄養

3)薬理学:薬力学, 薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序, 代謝, 臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論: 麻酔に必要な知識を持ち、実践できる

- a) 術前評価: 麻酔のリスクを増す患者因子の評価, 術前に必要な検査, 術前に行うべき合併症対策について理解している.
- b) 麻酔器, モニター: 麻酔器・麻酔回路の構造, 点検方法, トラブルシューティング, モニター機器の原理, 適応, モニターによる生体機能の評価, について理解し, 実践ができる.
- c) 気道管理: 気道の解剖, 評価, 様々な気道管理の方法, 困難症例への対応などを理解し, 実践できる.
- d) 輸液・輸血療法: 種類, 適応, 保存, 合併症, 緊急時対応などについて理解し, 実践ができる.
- e) 脊髄くも膜下麻酔, 硬膜外麻酔: 適応, 禁忌, 関連する部所の解剖, 手順, 作用機序, 合併症について理解し, 実践ができる
- f) 神経ブロック: 適応, 禁忌, 関連する部所の解剖, 手順, 作用機序, 合併症について理解し, 実践ができる.

5) 麻酔管理各論: 下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について, それぞれの特性と留意すべきことを理解し, 実践ができる.

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 成人心臓手術
- e) 血管外科
- f) 小児外科
- g) 高齢者の手術
- h) 脳神経外科
- i) 整形外科
- j) 外傷患者
- k) 泌尿器科
- l) 産婦人科
- m) 眼科

- n) 耳鼻咽喉科
- o) 口腔外科
- p) ロボット支援手術
- q) 手術室以外での麻酔

目標2(診療技術)麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1)基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について、定められたコース目標に到達している。

- a) 血管確保・血液採取
- b) 気道管理
- c) モニタリング
- d) 治療手技
- e) 心肺蘇生法
- f) 麻酔器点検および使用
- g) 脊髄くも膜下麻酔
- h) 鎮痛法および鎮静薬
- i) 感染予防

目標3(マネジメント)麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1)周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2)医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4(医療倫理, 医療安全)医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1)指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2)他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3)麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4)初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5(生涯教育)医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。

3) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・小児(6歳未満)の麻酔
- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔(胸部大動脈手術を含む)
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

[9]国立国際医療研究センター(関連研修施設) 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し、国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を实践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1(基本知識)麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1)総論:

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義, 医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上:麻酔の合併症発生率, リスクの種類, 安全指針, 医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理, 環境整備について理解し, 実践できる。

2)生理学:下記の臓器の生理・病態生理, 機能, 評価・検査, 麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡, 電解質
- i) 栄養

3)薬理学:薬力学, 薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序, 代謝, 臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬